

## 第2学年社会科学学習指導案

日 時 平成29年10月5日(木) 5校時  
生徒 2年 A・B組(17名)  
場所 2年 A組 教室  
授業者 下 公 貴 史

1 単元名 第3章 日本の諸地域 4節 中部地方 (東京書籍「新しい社会 地理」)

### 2 単元の目標

中部地方の地域的特色について、北陸、中央高地、東海の各地域の違いを自然的条件と社会的条件の両面から考察して捉えさせるとともに、中部地方の産業が地域に果たす役割やその動向が交通網の整備や外国との関係などによって変化していることに気付くことができる。

### 3 単元と生徒について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容「(2) 日本の様々な地域のウ日本の諸地域」に該当しており、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について七つの「考察の仕方」を基にして地域的特色をとらえさせると記されている。本単元は、中部地方の地域的特色を「(ウ)産業を中核とした考察」の視点から追究できるよう、構成したものである。

中部地方は国土面積の約18%をしめる広大な地域である。広大な土地を利用し、北陸は越後平野の日本有数の稲作地帯、中央高地の果樹栽培や高原野菜栽培、温暖な東海は茶園や施設園芸農業などがさかんに行われている。このように、地形や気候が地域の産業を特色付ける要素となっていることに着目し、地域的特色をとらえさせることが適切であると考え。

また、綿花を活用した繊維工業から発展した豊田市を中心とした自動車生産は、今日では地域全体の産業となり、主要幹線や港を利用して日本各地や世界の国々ともつながることで、日本最大の工業地帯を形成している。このような地域の特徴を生かした産業に着目して中部地方の地域的特色を考察させていきたい。

#### (2) 生徒について

生徒は「日本の諸地域」の学習を通して、「日本海側は冬の降水量が多い」「平野に人口が集中している」「太平洋側に工業地帯が形成されている」など、主に自然環境や人口、産業の面からおおまかに地域的特色をとらえている。これらの事前知識を活用し、産業を中核としながら中部地方の地域的特色をさらに深めて理解させていきたい。

また、事前に行ったアンケートで「社会の授業に興味がある」17名中8名、「社会の授業は将来役に立つ」11名と、ほとんどの生徒が社会の授業に肯定的な印象を持っている。これまでの学習経験を想起させ予想を立てさせたり、身近な社会的事象や関連する資料を探して根拠をもたせた説明をさせたりする指導を行い、徐々に資料の読み取りと言語活動の質の向上を図ってきている。

### (3) 指導構想

本単元では、中部地方の地域的特色について、特長的な事象を取り上げて中心とし、他の事象と有機的に関連づけて追究させる動態地誌的な学習の手法を用いながらを明らかにしていく。広大な土地を利用して稲作や果樹栽培、茶畑や施設園芸農業がさかんに行われていること。輪島塗や加賀友禅などの伝統産業が冬の副業としてはじまったこと。繊維工業から発展し、現代では地域全体で自動車の生産が行なわれている工業地帯が形成されていることなど、中核となる事象を産業とした単元をつらぬく学習課題（追究テーマ）を設定することで、単元の学習の見通しをもたせ、学習に対する目的意識を大切に学習をすすめていく。また、課題解決型の学習活動を行う際、以下の点に留意することで確かな学びと豊かな学びを実現させる。

一点目は、単位時間ごとに学習課題や学習プロセスを生徒に考えさせ、学習の見通しをもたせてから課題解決型の学習を展開することで、主体的な学び方を身に付けさせる。

二点目は、学習課題を解決するために個人での活動とグループでの活動を取り入れ、協働的な学習を通して個人の学びの深まりや広がりにつなげる活動ができる学習展開を工夫する。

三点目は、授業を通してわかったことやできるようになったことを自分の言葉で説明させるために、本時の学習を振り返る場面を設定し、生徒自身が学習の成果を実感できるよう工夫する。

## 4 単元の指導計画（全6時間、本時2時間目）

節	項	時数	「学習課題」 ・ 主な学習内容
中部地方 活発な産業を支える人々の暮らし	中部地方の生活の舞台と人々の営み	2	「中部地方の三つの地域にはどのような特徴があるのだろうか」 ・ 日本の屋根 ・ 雨温図の読み取り ・ 3つの気候〔北陸、中央高地、東海〕  <b>「中部地方の三つの地域にはどのような特徴があるのだろうか」</b> <b>(本時2/2)</b> ・ 自然環境の振り返り ・ 人口分布 ・ 盛んな工業、農業、観光業、伝統産業  ・ 単元の学習課題〔追究テーマ〕の設定 「中部地方の産業が、地域ごとに発展したのはなぜだろう」
	工業の発展と地域の変化	1	「中部地方を代表する工業には、どのような特徴があるのだろうか」 ・ 東海の工業 ・ 変容する工業地域 ・ 雪国の伝統産業
	自然環境を生かした各地の農業	1	「中部地方の農業には、どのような特徴があるのだろうか」 ・ 日本の米所〔北陸〕 ・ 盆地と高原の農業〔中央高地〕 ・ 人々が築いた産地〔東海〕
	世界と結びつく中部地方	1	「中部地方はどのように他地域と結びついているのだろうか」 ・ 名古屋大都市圏と世界の結び付き ・ 日本海を舞台に活性化する北陸地方
	学習を振り返って	1	「中部地方の産業の特色をまとめよう」 ・ 単元の学習課題〔追究テーマ〕に対する答えを自分の言葉で記述してまとめる

## 5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考 ・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
中部地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、三つの地域の産業について関心を持ち、地域的特色を追究しようとしている。	中部地方の産業の地域的な違いについて、地形や気候などの自然的条件と社会的条件との両面から考察して、各地域の特色を捉え適切に表現している。	中部地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真などの資料を選択・収集している。	中部地方の地形、気候、人口分布、産業などの特色を理解し、その知識を身に付けている。

## 6 本時の展開

### (1) 本時の目標

中部地方について人口・産業の面から調べ、そこに住む人々の生活の営みに目を向け、中部地方の三つの地域の産業に関心をもつことができる。

### (2) 本時に係わる評価規準

#### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

中部地方の産業について、意欲的に追究している（観察・発言・ノート）

### (3) 本時の展開

段階	生徒の学習活動 Q：教師の発問 A：（予想される）生徒の発言，反応	・教師の指導上の留意点 【評価の観点】（評価方法）
導 入  5 分	1 前時の学習内容を想起する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで問題を出し合い前時の学習における生徒の理解度をつかむ。</li> <li>・前時から2時間共通の学習課題を確認し、学習内容をつかませる。</li> </ul>
	2 学習課題を確認する	
<b>中部地方の三つの地域にはどのような特徴があるのだろう</b>		

展	<p>3 予想を立てる</p> <p>Q：東海地方に人口が集中していることが分かりますが、なぜでしょう？</p> <p>A：暖かいから、平野部があるから、大都市があるから、です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が集中することで様々な産業が発達することを想起し、産業からどんな特産物があるかについて関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口分布図、生産額を示すグラフを提示する。</li> </ul> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <p>中部地方の産業について、意欲的に追究している（観察・発言・ノート）</p>
開	<p>4 調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人口」「工業」「農業」から一つ選び、グループで調べる。</li> </ul> <p>Q：どのような資料があれば確かめられますか？</p> <p>A：人口分布の地図、生産割合のグラフ、写真資料、です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集、地図帳にアンダーラインを引き、関連する資料もおさえる。白地図に着色したりメモを書き込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動を<b>使い</b>、相手の考えを引きだしたり役割分担をさせるなど、協働的な活動になるよう指導する。</li> </ul>
	<p>5 発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や資料と関連付けて発表する。</li> </ul> <p>6 まとめる</p> <p>【記入例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでまとめた内容を<b>使い</b>、特色ある産業が地域ごとに発達していることに気付かせる。</li> </ul>
40分	<p>人口は、北陸は約 530 万人、中央高地は約 500 万人、東海は約 1120 万人、人口の多い東海には主要幹線や政令指定都市がみられる。工業では、北陸の金属や化学工業、伝統産業や地場産業、中央高地は精密機械や電子工業、東海は中京工業地帯や東海工業地域がみられる。農業は北陸の稲作、中央高地の果樹栽培や高原野菜、東海では施設園芸農業や茶などがさかんである。</p>	
	<p>7 単元の学習課題（追究テーマ）を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方には、三つの地域とそれぞれに特長的な産業があったことから、単元の学習課題（追究テーマ）を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習の流れを想起させ、生徒から引きだすよう工夫する。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>中部地方の産業が、地域ごとに発展したのはなぜだろう？</b></p>		
終 結 5 分	<p>8 本時の学習を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードを記入する。</li> <li>・宿題を提示し、次時に<b>つながる</b>よう意欲を高める。</li> </ul>

(4) 板書計画

<b>つかみ</b> <b>学習課題</b>	<b>使い</b>	<b>つなげる</b> <b>まとめ</b>
<b>中部地方の三つの地域にはどのような特徴があるのだろう</b>	<b>人口</b>	地図
3つの地域の雨温図	グループの考え	資料
人口分布図	<b>工業</b>	地図
生産割合のグラフ	グループの考え	資料
生産割合のグラフ	<b>農業</b>	地図
生産割合のグラフ	グループの考え	資料
		<p>人口は、北陸は約 530 万人、中央高地は約 500 万人、東海は約 1120 万人で、人口の多い東海に主要幹線や政令指定都市がみられる。工業では、北陸の金属や化学工業、伝統産業や地場産業、中央高地は精密機械や電子工業、東海は中京工業地帯や東海工業地域がみられる。農業は北陸の稲作や中央高地の果樹栽培や高原野菜、東海では施設園芸農業や茶などがさかんである。</p>
		<b>単元の学習課題</b> <b>中部地方の産業が、地域ごとに発展したのはなぜだろう？</b>
		宿題の提示